

訪問看護ステーションひだまり

高根沢町宝石台5丁目15番地4 ランドハウス福田B棟



管理者

久保 和枝 様
利用保険割合
医療保険…6割
介護保険…4割

まさに「ひだまり」のように暖かい雰囲気、訪問看護ステーションだと思えました。また、精神科看護の豊かな経験に根差した的確な判断は、地域で暮らす患者さんにとっても家族にとっても安心につながりますね。(記者より)

施設のアピール

訪問看護ステーションひだまりは、(株)オニール企画が運営しています。同じ事務所にはヘルパスステーションも併設され、生活全般の支援を行っています。壬生町にサテライトを立ち上げるために一時的に休止していましたが、令和3年9月に再開し、現在は看護師3名で運営しています。精神科病棟での勤務経験がある看護師が在籍しているので、精神科医療機関との連携がスムーズです。小規模ステーションの良さを活かし、患者さんのペースに合わせ、心と心をつなぐ丁寧な看護を目指しています。



ひだまりのように暖かい雰囲気の方皆さん。事業管理責任者の加藤さん(左)、看護師の阿久津さん(中央)と神益さん(右)

連携している主な医療機関

岡本台病院、烏山台病院、菅又病院、NHU宇都宮病院、済生会宇都宮病院等の医療機関と密な連携を図っています。

施設の役割や特徴について

患者さんの受け皿となる訪問看護、これまで病棟で勤務していましたが、病状は落ち着いていても、退院する場所の調整が難しいなど様々な事情で、退院できない患者さんもいました。入院が長期化することによって、病棟で年を重ねることになり、生活能力も少しずつ低下していきます。「地域包括ケア」という大きなことのように見えてしまいますが、そのような患者さんが一日でも早く地域で自分らしい生活が送れるように、訪問看護も患者さんの受け皿の一つとなって支えていきたいと思っています。

心に残った患者さんとのエピソード

次の受診までの間をつなぐ

精神科に通院する患者さんは、おおよそ月に1〜2回の頻度で外来通院をします。その間の生活を支えるのが訪問看護です。患者さんのサポートはもちろん、疲れ切った家族に代わって病状を丁寧に把握し、主治医との連携を図るのも大切な役割です。

最初は、主治医からの連絡でした。外来診察で来院したのに、怒っていて診察室に入らず診察できなかったの自宅の様子を見てきてほしいと依頼があり、支援が始まりました。

まず訪問看護師が自宅で患者さんや家族に問診をし、その結果を主治医に報告しました。主治医はその報告内容を踏まえ処方内容を調整してくれます。訪問看護師は家族に服薬のさせ方など対応のアドバイスをしました。そうして訪問を継続し、外来診察の都度、症状の経過、デイサービスに行っているか、トラブルはないか、などの生活状況をまとめ、今後想定されることなどをアセスメントした報告書主治医に送りました。主治医は、それらの情報と、患者さんや家族への診察結果を踏まえ、再度処方内容など調整してくれました。その結果、怒りっぽくなっていた患者さんが穏やかに過ご

ケアマネジャーとの連携で思うこと

せるようになり、家族からも「とても安心できました。」と言っていたことができました。

例えるなら、外来受診は「点」で、訪問看護は次の外来受診の「点」までをつなぐ「線」にならなければいけないと思っています。

医療保険の訪問看護が多いので、まだケアマネジャーとの連携は数としては少なく、これから取り組んでいきたいと考えています。医療に関する知識をわかりやすく伝えることや、主治医との連絡調整など訪問看護の得意分野を活かして一緒に患者さんを支えていきたいと思っています。



インタビューが10月だったので、玄関でかわいいカボチャが迎えてくれました。



ステーションは「情報の森」の交差点近くにあります。